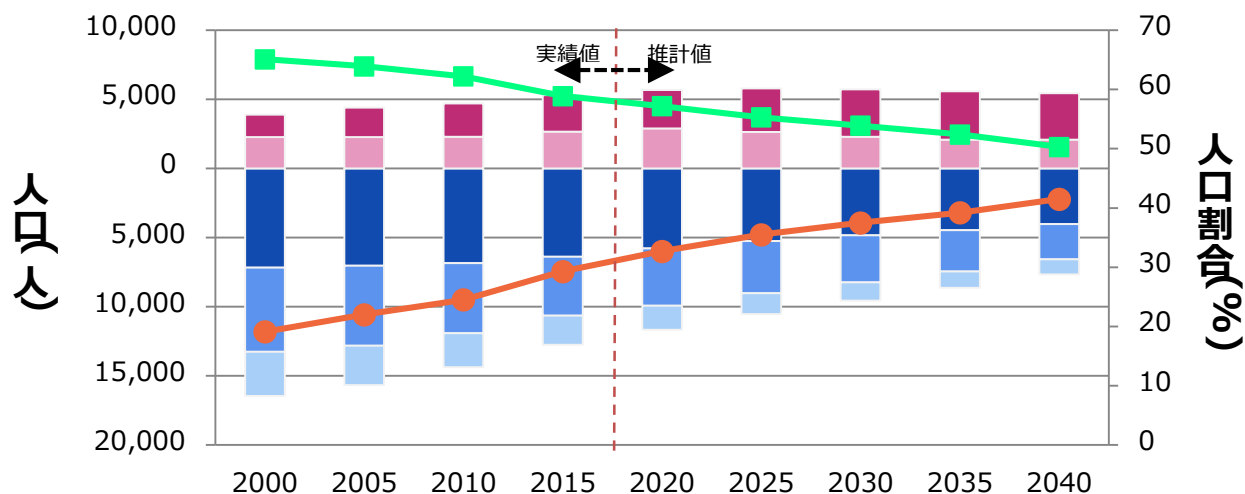


総合事業等の充実のための 厚生労働省職員派遣事業 支援結果報告

奈良県大淀町長寿介護課

大淀町の人口推移



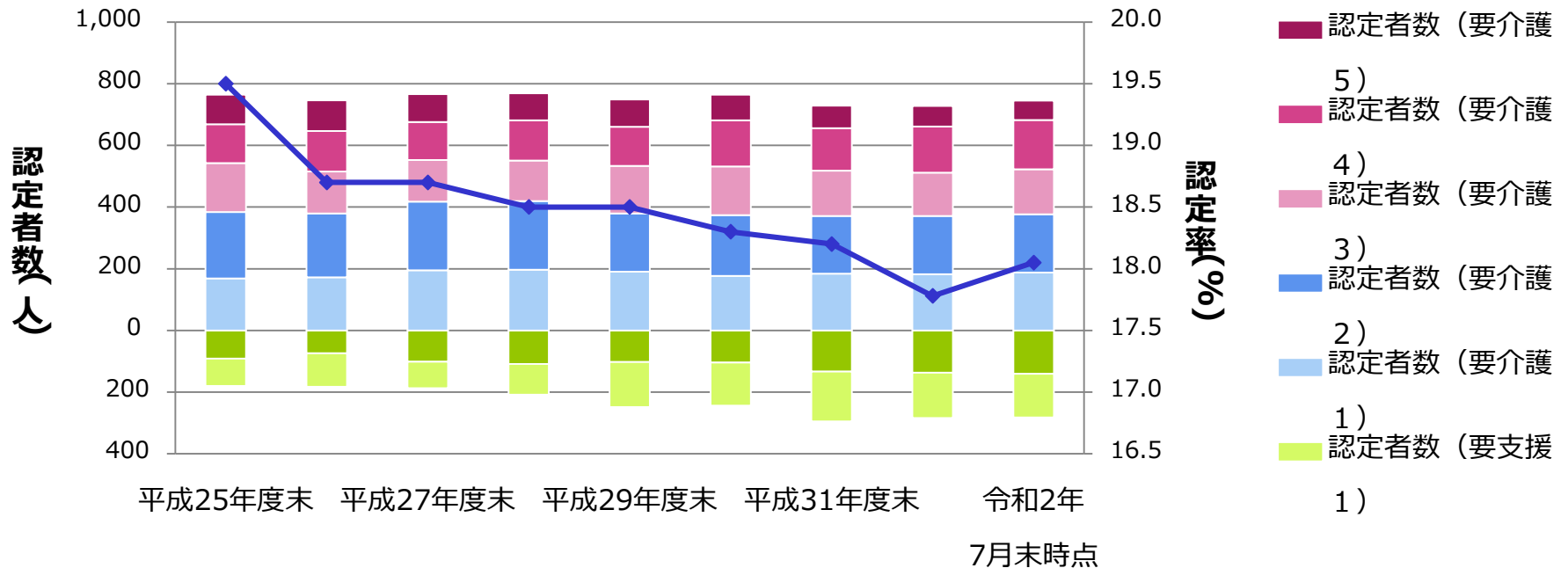
(出典) 2000年～2015年まで：総務省「国勢調査」
 2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推

大淀町の高齢化率の降順		
(2015年10月時点)		
奈良県内	27番目	39保険者
全国	927番目	1,565保険者
(2025年の推計値)		
奈良県内	24番目	39保険者
全国	785番目	1,512保険者
(2040年の推計値)		
奈良県内	22番目	39保険者
全国	627番目	1,512保険者

- 75歳以上
- 65歳～75歳未満
- 15歳未満
- 15歳～40歳未満
- 40歳～65歳未満

- 大淀町の人口は減少傾向にあり、生産年齢人口割合は下がる見込みであり、高齢者人口についても2025年以降、減少に転じます。
- 一方で高齢化率の上昇は継続する見込みとなっています。

大淀町の要介護（要支援）認定者数、要介護（要支援）認定率の推移

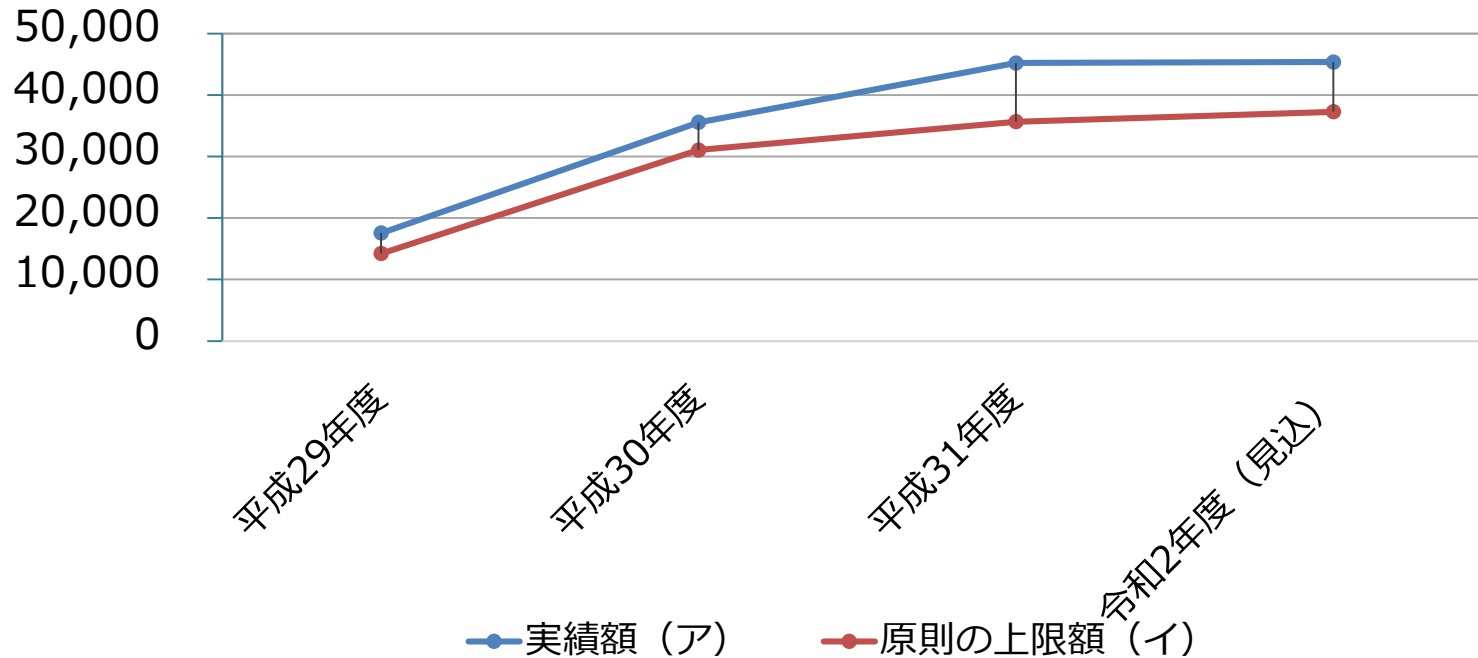


（出典）平成23年度から平成28年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」、平成29年度から令和元年度：「介護保

- 被保険者数が増加、高齢化率が上昇しているなか、認定率は年々減少しています。給付の適正化や平成29年から開始した総合事業への移行が影響していると考えられます。

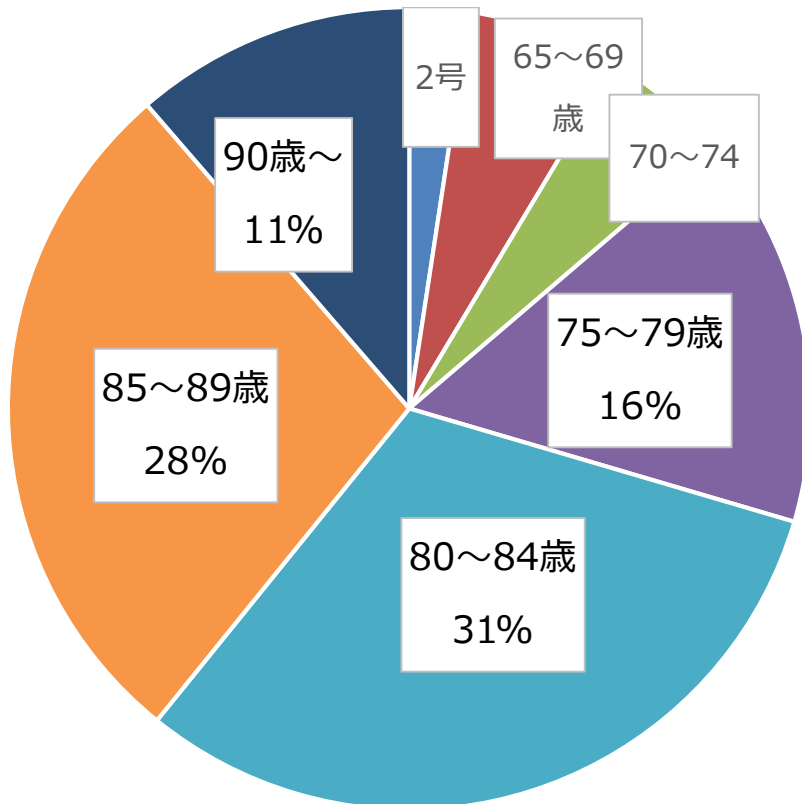
大淀町の介護予防・日常生活支援総合事業の状況

総合事業の上限額・実績額（千円）



- 総合事業は平成29年4月1日から開始
- 実績額は開始当初から上限額を超えており、令和2年度はコロナの影響でその差は縮小されましたが、今後も上限を超えることが見込まれます。

年齢別要支援認定状況

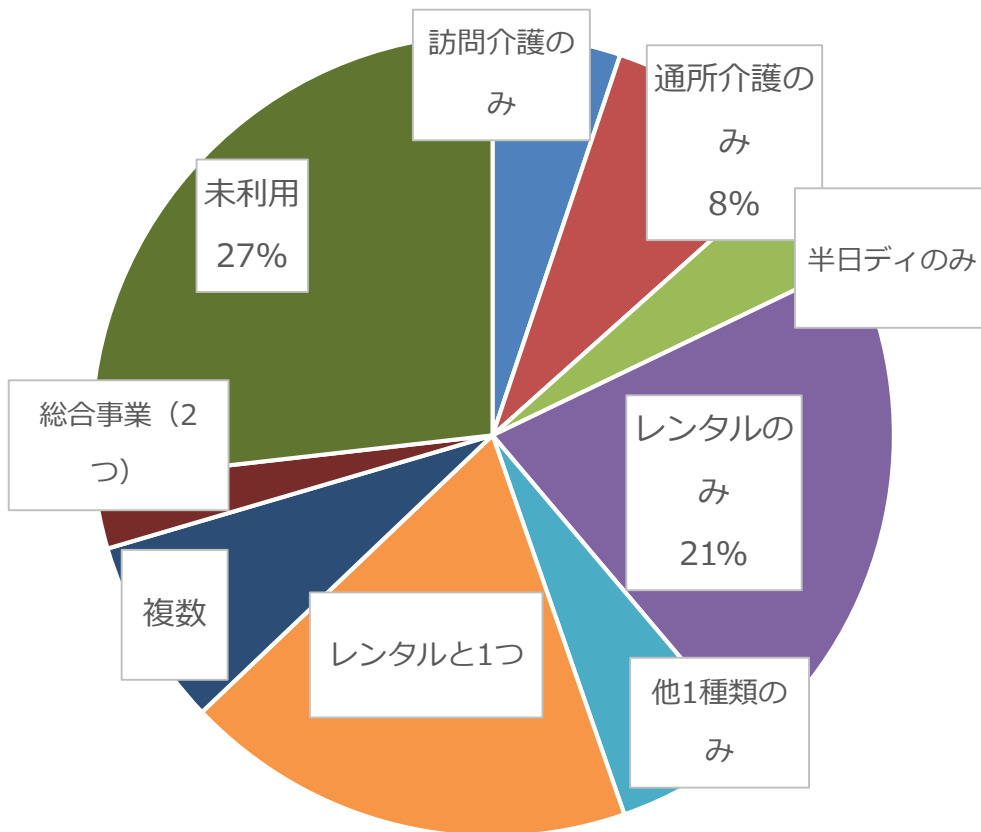


大淀町で要支援認定を受けている方を年齢別に集計

最も多いのが「80～84歳」で31%となっています。

「75～89歳」の認定者数が全体の75%を占めている状況です。

要支援者のサービスの状況



要支援者のサービス提供状況について集計

最も多いのが「未利用」で27%となっています。

次に多いのが「レンタルのみ」で21%
次いで「レンタルともう1種類」で18%となっています。

1回目の指導(令和2年9月)

- 1.総合事業の目的の共有
 - ・ 総合事業の現状
 - ・ 「住民主体による介護予防」の実現に向けて
 - ・ 現状や課題の共有
- 2.住民主体の介護予防を実現するための効果的アプローチの検討等
- 3.今後の取組みスケジュールの検討
- 4.中長期的な目標設定
- 5.戦略会議
 - ・ 意見交換会を踏まえた助言・指導
- 6.今後の事業（案）の検討



1 回目の指導を受けて

- 住民主体の通いの場の事業展開に具体性が出てきた
- これまでも業務で連携はしていたが、包括支援センター、社会福祉協議会、生活支援コーディネーター、介護担当課が一同に会して思いや考えを共有し、方向性の確認と今後の展開について意思統一が図れた
- 町の現状と将来像を町民へ伝えていくこと、地域の機運を高めていくことの重要性を再認識できた
- 外部からの客観的な意見により緊張感や刺激をもって臨むことができた
- 住民主体の通いの場の展開と同時に、給付の適正化をブラッシュアップして進める

今後進めていく事業

目標：「住民主体の通いの場」を 1か所 展開していく

【厚生労働省による介護予防コンセプト】

- ①市町村の全域で、高齢者が容易に通える範囲に通いの場を住民主体で展開
- ②前期高齢者のみならず、後期高齢者や閉じこもり等何らかの支援を要する者の参加を促す
- ③住民自身の積極的な参加と運営による自立的な拡大を目指す
- ④後期高齢者・要支援者でも行えるレベルの体操などを実施
- ⑤体操などは週1回以上の実施を原則



住民主体の通いの場を展開するための取組

⇒これまでの反省を踏まえ、組織的な意見交換前に、担当者レベルによる情報の掘り起こし、意見交換を実施しスケジュールを組み立てる

案①

老人会・自治会の会員、地域のサロン・趣味の集まり・スポーツの集まりの参加者に声掛け

【課題】

公平に声掛けが必要
多数が手上げしてきたときの対応（マンパワー不足）

案②

介護予防リーダーや、いきいきふれあい教室の参加者に声掛け

【課題】

今後の事業展開や実施状況の把握に課題がある

案③

モデル地区（2～3地区）を選定し進める

【課題】

どの地区を選定するか

住民主体の通いの場を展開

区長会役員会にて通いの場の説明

- 区長会が老人会やサロン会の上部組織にあたる。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため全区長集まるとの会議が開催できないため、区長会役員へ直接説明を行い、全区長へ資料配付することに同意をいただき配付する

モデル地区の選定

- 介護予防リーダースマイルのメンバーがサロン会の役員を兼ねている地区を中心にモデル地区として選定し、ファーストコンタクトをとる

2回目の指導(令和3年1月)ZOOM

1. 通いの場の創設について
 - ・ 町の取り組みと今後の課題について
 - ・ コーディネーターの取り組みについて
 - ・ 介護予防リーダーの活動について
 - ・ まちの保健室の実施状況について
2. 総合事業訪問B型の展開について
3. 講義（助言・指導）
4. 意見交換会
 - ・ 講義を受けての意見交換
 - ・ 今後の取り組みの検討



2回目の指導を受けて

住民主体の通いの場

- 継続のコツとして、住民に任せて終わりではなく、定期的な巡回が必要
- 来る方にやらされ感ではなく、自分たちの課題解決にこの場が必要であることを認識していただく
- プロセスを記録し、みんながやりたくなる集まりの場のモデル地区の成果とプロセスをみんなに見せていくことが必要

総合事業の適正化

- 根本的に元気な人をつくる仕組み、多様なサービスで元気になる仕組みをつくることで適正化が図れる
- すでに利用されている方に我慢してくださいは無理、新規申込み時、包括支援センターで対応するものについてまず整理していくこと

住民主体の通いの場の実施

モデル地区で説明会および体験会実施



説明会では、

- ・大淀町の介護保険のお話
- ・百歳体操をすでに取り組んでいる自治体の映像の視聴

体験会では、
実際に「いきいき百歳体操」をやっていただきました。



「続けてやると体力つきそうやね」

「ゆっくりな動きだけど結構しんどいわー」

今後の展開

- モデル地区（2地区）への支援
 - ◆ 立ち上げ支援：最初3回、2～3か月後にそれぞれ1回
 - ◆ 体力測定（最初1回目とあとは2～3か月に1回）
 - ◆ DVD貸出し
 - ◆ おもり貸出し（最初3か月）

- モデル地区の取組記録

- 新たに取り組む地区の発掘
機会があるごとにモデル地区の取組を周知

➡新たに1地区が説明会を希望



ご清聴いただき
ありがとうございました。
た。

大淀町マスコットキャラクター
梨の妖精「よどりちゃん」

